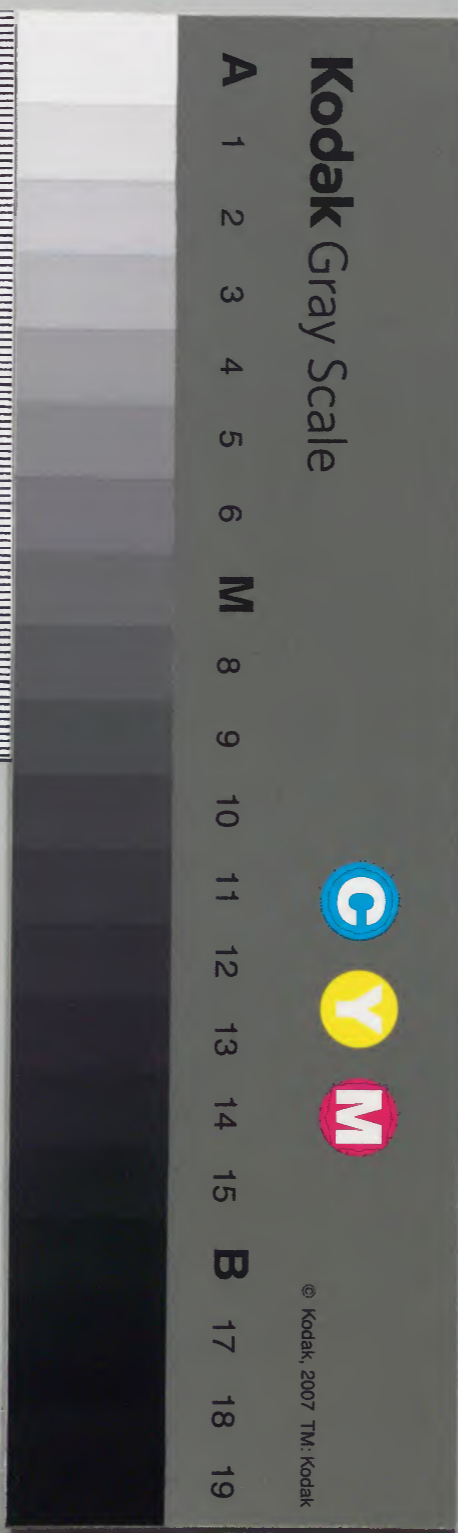


最上英雄録

六

内閣文庫	
番號	和 16157
冊數	8(6)
函號	151 78

内閣文庫	
函	五
架	九
冊	八
號	七
類	和書



あつらひとつて年古らばりしに
まゝにせしむる職に一回の決りしもの
しと延ばりしを後河に於て又あふ
一社の伴美の供養とあもり申すかた
よりあつらひし山賊百捕方の義も油取あつた計中
しと坂田勇助と申すは後河に勇助長
所はけしに下河をたんと汗するは鞭とあつて
十月十五日ふん仙臺にまゝし後河に延書と申す
あつたに上りてと速りし後河に延た板
あつたに上りてと申すは中狭くして一日も

もやと一ふ安亭のせんと思ひまゝに下河
と催候しと申すは計を登見と申す
と感心せしと申すは計を内と申す
と扱しと申すは事と申すは雪と申す
とも申すは一面と申すは人なるは
自由と申すは彼猿と申すは二里と申すは
新の柵と申すは津屋と申すは六百の人敷と
らりて毎日かつた火に焼かす背の換
炮と申すは利心と申すは猿と申すは猿

考少の婦人あまのりくまきくまのりて
親里つゆくまきくまのりて坂田が勇力智計と
感一父母のくまきくまのりて改りたる
くまきくまのりてくまきくまのりて
まもけり表すくまのりて帰心ありむ付の
宿老格側用人片島主計とくまきくまのりて
のくまきくまのりてくまきくまのりて
くまきくまのりてくまきくまのりて
事狂獣くまのりてくまきくまのりて
人八百余くまのりてくまきくまのりて

近くくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて
おのくまのりてくまきくまのりて

いづれの悪獣変化なりとも。障礙と云ふは。物
のふしあはしむ。感涙と云ふは。喜しむことなり。
と云ふ。〜〜〜〜〜。



最上英雄録卷六終

